

「日本型教員養成教育アクリディテーション・システムの開発研究」フォーラムを開催

東京学芸大学では、平成 26 年度に、文部科学省から特別経費を得て「教員養成評価開発研究プロジェクト」を立ち上げ、教員養成教育を行う他の大学や学校・教育委員会関係者等と連携して「日本型教員養成教育アクリディテーション・システムの開発研究」事業を推進してきた。

事業計画の最終年度を迎えるにあたり、これまでの開発研究の成果を踏まえ、3 月 9 日（木）にホテルアルカディア市ヶ谷鳳凰の間においてフォーラム「教員養成教育の質保証の未来～日本型アクリディテーション・システムの可能性を検証する～」を開催した。

まず、文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室若林専門官から「教員養成制度改革の動向と教員養成教育の質保証」と題して基調講演が行われ、今後の教職課程に対する政策説明や質保証に対する展望について説明があった。

次いで、この 3 年間のプロジェクトの取り組みとして実施報告があり、その中でプロジェクト委員でもある宮本浩治岡山大学大学院教育学研究科准教授、福島健介帝京大学教育学部教授の両氏から実際に評価を実施した大学の関係者として、認定評価を大学においてどのように活用したか報告が行われた。

この後、中島秀明佐賀大学大学院学校教育学研究科教授（佐賀県教育委員会特別顧問）、前田早苗千葉大学国際教養学部教授、宮本浩治岡山大学教育学研究科准教授、山崎準二学習院大学文学部教授をパネリストとして「日本型教員養成教育アクリディテーションの展望」というテーマでパネルディスカッションが行われた。

約 100 名の国公私立大学関係者等から参加を得て、フォーラムの最後の質疑応答では、私立大学関係者や分野別評価を実施している評価機関関係者等から、本取り組みの今後やその有効性などについて意見がだされ、活発な意見交換の中でフォーラムを終了した。

なお、当日、開発研究の成果として「東京学芸大学日本型教員養成教育アクリディテーション・システムの開発研究報告書」が参加者に配布された。



挨拶をする出口学長



基調講演をする若林専門官

